

「事業環境が大きく変化しています。『発泡樹脂は地産地消型のビジネスで、地域ごとに課題が異なる。例えば、米国では主力の自動車向けのほ

5

化学産業 潮目を見る

「経営環境の変化について注視している要因や課題は。『環境問題に関してバランスの取れた議論が求められる。化学メーカーの技術や取り組

中興化成工業社長 庄野直之氏



「足元では半導体関連の引き合いが好調だ。半導体製造で用いる薬液に変質しないことなどから、製造装置部品にフッ素樹脂が使用される。電機・電子関係は劣化に強い絶縁材料として有用性が増すだろう。フッ素樹脂は

JSP社長 大久保知彦氏



か、消費活動に近い製品もある。足元のインフレに対し強めの金融対策が打たれた場合、市場はどう動くか。消費市場はどうか。中国はロックダウンなどさまざまな影響

地域ごとの課題注視

「懸念される」自動車市場に関して。『コロナ禍による生産現場の制約が解消し、自動車生産は回復傾向だ。需給バランスは正常化に向かう一方、景気動向により車販売が順調かどうかで

状況は変わるだろう』成長戦略は。『自動車分野は緩衝材など部材ほか、部品輸送に使う包装材料を手がけており受注を伸

ばしている。電動化で車体の軽量化ニーズが高まり、電気自動車(EV)バッテリー周辺などに発泡材料を活用できる余地が出ている。自動車以外の事業展開も強化する。当社が扱う無架橋のポリオレフィン樹脂はリサイクルが容易だ。さまざまな用途で、素材の均一化につながる技術を検討していきたい」

「調達対応に加え、オーバースペックの部分に関して設計の見直しを提案することもある。最近では顧客の協力を得られており、互いに手を取り合いながら対応していきたい」

絶縁材の有用性増す

(火・金曜日に掲載)

2022年度下期を読む		
NO	① 2022年度下期の景況感は上期と比べて上向き	YES
NO	② インフレ傾向は今後収束に向かう	NO
YES	③ 2022年度下期の為替レートはより円安が進行する	YES
YES	④ 収益維持にはさらなる価格転嫁が必要だ	YES
NO	⑤ 一部製品で生産の国内回帰を検討している	NO

(大川諒介)

「原料のフッ素樹脂は世界的な不足が続いています。『調達対応に加え、オーバースペックの部分に関して設計の見直しを提案することもある。最近では顧客の協力を得られており、互いに手を取り合いながら対応していきたい」